

## 安全・安心は家庭から

交通安全標語コンクール優秀作品

暗くなると危ないよ 明るい服装で 歩こうね  
伊藤梨花 (大仁北小)  
全員で 事故を防ごう できるはず  
重田麗春 (長岡北小)  
右左見たその次は 運転手さんにありがとう  
杉山実菜 (葦山小)

市役所地域づくり推進課 ☎ 055-948-1412

## 2015年農林業センサスにご協力ください



2月1日を調査基準日として、全国一斉に“農林業の国勢調査”といわれる「2015年農林業センサス」を実施します。

農林業を営んでいる皆さんのところに1月中旬から調査員が訪問しますので、調査票に農林業の経営状況などの記入をお願いします。

市役所総務課 ☎ 055-948-1411

## 図書館だより

今月のおすすめ ～幕末長州藩の人々～

激動の幕末期、時代の中心に躍り出た人々の中に、長州藩ゆかりの人々がいました。吉田松陰や高杉晋作、桂小五郎、伊藤博文…。彼らを取り上げた本を紹介します。  
△ = 小説、▲ = 小説以外



▲『吉田松陰とその妹文の生涯』 不破俊輔 (著) / 明日香出版社

松陰も、夫・久坂玄瑞も無念に散ったが、文は明治維新を見届け、のちの群馬県知事と再婚。彼女から見た歴史とは。【中央】



△『春風伝』 葉室麟 (著) / 新潮社

日本の未来を見据え、奇策を用いて内外の敵を圧倒した稀代の革命児・高杉晋作。詩と女を愛した、短く激しい生涯を鮮やかに描く長編小説。【中央】

■【中央】にある本は大仁まで借りに行かないといけないの？

【中央】の本を葦山でも長岡でも、最寄りの図書館に取り寄せて(予約して)借りることができます。予約はカウンターのほか、電話でも受け付けます。詳しくは職員にお尋ねください。



図書館カレンダー  
モバイル版QRコード



- △『いかで忘れん 久子と松陰』 松原誠(著) / 新人物往来社【葦山】
- △『桂の花 幕末純愛伝』 加野厚志(著) / 廣済堂出版【葦山】
- △『シュンスケ!』 門井慶喜(著) / 角川書店【長岡】
- △『世に棲む日日』 司馬遼太郎(著) / 文藝春秋【全館】
- ▲『高杉晋作と長州 人をおくる』 一坂太郎(著) / 吉川弘文館【中央】
- ▲『長州暴走 幕末の青春譜』 古川薫(著) / KKベストセラーズ【葦山】

図書館ホームページ <http://www.izunokuni.library-town.com/> 中央図書館 ☎ 0558-76-5566

1月の休館日	中央図書館	葦山図書館	長岡図書館
30日(金)	1日(木)～5日(月)、 12日(月)、19日(月)、26日(月)	1日(木)～4日(日)、 7日(水)、12日(月)、14日(水)、 21日(水)、28日(水)、30日(金)	1日(木)～5日(月)、 12日(月)、13日(火)、19日(月)、 26日(月)、30日(金)

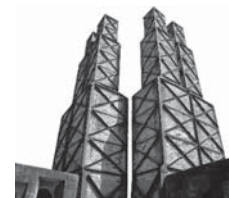
## 文化財通信

その115

### 葦山反射炉はなぜ残ったか

(その2)

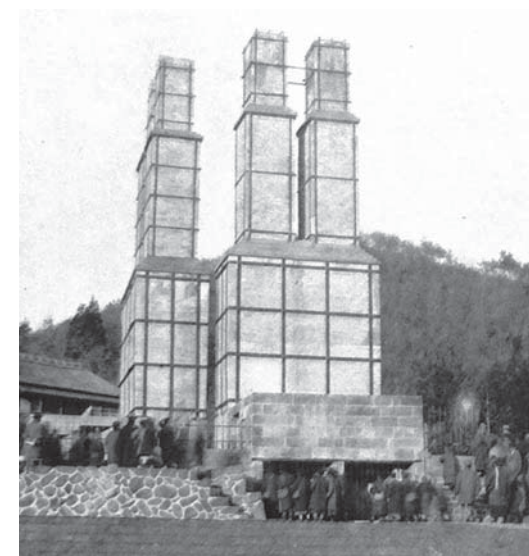
市役所文化振興課 ☎ 055-948-1428



山田三良肖像  
『回顧録』より

荒れるにまかされていた葦山反射炉について、保存の動きが起きはじめたのは、明治39年(1906)頃からのことである。江川坦庵公没後50年を契機として、第38代江川家当主江川英武(1853～1933)の女婿山田三良(1869～1965・法学者・帝国学士院長)が中心となり、保存運動が展開されました。

山田三良本人が綴った『回顧録』によると、「私が明治三十九年十一月 新人国記の著者横山健堂と共にこれを見学した際には、(中略)暴風雨か地震が襲来すれば忽ち崩壊することを免れない状態であった。そこで私は我が砲兵工廠の前身であり、大砲製造の発祥地である反射炉をこの儘崩壊せしめるに忍びないことを痛感し、健堂に江川家所蔵の記録について反射炉の由来を調査し研究し



反射炉古写真(陸軍省による修理後)  
(公益財団法人江川文庫蔵)

て、その修理の肝要なることを鼓吹することを囑望したので、彼は直にこれに着手し、翌年一月から新聞に雑誌にその研究を発表することとした。寺内陸軍大臣は早速これに着目せられ、(中略)陸軍省の直営として十月頃より起工して翌年一月上旬これを完成せられ」とあり、山田らの働きかけが陸軍省による保存修理工事につながったことがわかります。

工事の落慶式は、明治42年(1909)1月16日、江川坦庵公の55回忌を期して行われるとともに、葦山中学校(現静岡県立葦山高

等学校)において「坦庵追慕会」が行われ、真から、本体に着生した草木類の除去と煉瓦の補修、煙突部上中下層への鉄帯補強、反射炉南西側および東側から南東側にかけての石垣・階段の整備、反射炉周囲への銃剣柵の設置、周辺敷地の整地などが実施されたことがわかります。池や植栽の整備も、この時行われたと考えられています。この陸軍省による保存修理は、反射炉本体の保存に大きく寄与したのみならず、その後の史跡指定に向けての気運醸成にもつながっていきました。

(その3につづく)

催され、寺内正毅陸軍大臣の記念講演も行われました。陸軍省による保存修理事業の詳細は必ずしも明らかではありませんが、公益財団法人江川文庫所蔵の古写